

けるものであることは、1980年と1995年に行われた二度の国民調査により、一層明確になりました。二回とも、プロテスタンティズムの吸引力の可能性は、現在の教会の状況をかなり超え出したものであることが、明らかにされたのです。すなわち、フランス人（千八百万人）のうち、4.2%が、自分はプロテスタンティズムに親近感を覚える、と公言しているのです（カトリックの65%に対して）。プロテスタント教会の信徒が90万ですから、プロテスタンティズムの容量は現在の二倍となる可能性があります。親近感の理由は、同じアン

ケートによれば、精神の自由（肯定的回答者の53%）、聖書の地位（28%）、道徳的諸原則（29%）といったものです。ただし、ここで問題となっているのは、あくまでも宗教的嗜好の調査とその数字であり、各個人の実際の信仰内容ではありません。これらの数字は、新たに次の問いを呼び起こします。プロテスタンティズムに親近感を持つこれらのフランス人が、最終的にそこに加えられるには、内的多元主義の尊重は、果たして妨げになるのか、それとも魅力になるのか、ということがあります。

Actual situation of protestantism in France

ABSTRACT

When we observe the actual situation of French Protestantism and its recent developments, we must bear in mind three essential points: first, French Protestantism maintains its historic protestant form, which originated from the Reformation. Secondly, although French Protestantism has been a minority religion, it has given important influences to its society unlike in other Catholic countries, such as, Italy and Spain. Lastly, present French Protestants are proud of their ancestors' faith and wish to succeed their tradition. Now they wait for the omni-presence of God, His order and awakening of the churches, and finally in the future they wait for the coming kingdom of God.

Key words: protestantism, France, history of the church